

水田深耕の効果に関する研究

真鍋武夫・佐藤義昌・森岡恒三・糸瀬貞義

1. 水田深耕によって玄米収量は増加したが、植物体の無機成分の吸収割合には特に大きい差が認められず、根重特に下層(15~25 cm)の根重に大きい差が認められた。
2. 深耕の効果が特に認められた土壌は、表土、下層土の置換性塩基含量が大で、且つ下層土の密度が大で全孔隙量の小さい場合であった。
3. 深耕時期は水稻の収量のみから考えれば春季が適当であった。
4. 深耕後の窒素肥料の施用量は砂壤土の時はやゝ増加して元肥重点とし、埴壤土乃至埴土の時はやゝ減じて追肥重点がよいようであったが、この点については更に検討の余地がある。